

# Desert Wind (No. 13)

Las Vegas Japanese Community Church

DECEMBER 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集: 平山未樹

『多くを赦された者は多くを愛する』

LVJCC 牧師: 鶴田健次

今回はルカの福音書7章36-50節から『罪の女の赦し』の物語を通して考えてみたいと思います。この物語はルカの福音書にだけ出てくるイエス様のお話です。ルカの福音書の一つの特徴は『愛』です。もちろん、どの福音書も愛を語りますが、ルカは、特に、この世から疎外され、人から相手にもされない人間が、イエス様の愛によって神のもとに招かれている、そういう愛について語っています。

まず、このお話から教えられる第一のことは、イエス・キリストは人の心を受け止められる方であるということです。乞食、犯罪人、売春婦、収税人・・・、聖書には、このような、世の中では落ちこぼれと言われる人々が登場します。彼らは苦しんでいました。ところが、パリサイ人たちは決して彼らを憐れんだり、彼らに救いの手を差し伸べたりしませんでした。それどころか彼らを『罪人』と呼んでさげすみ、彼らの心の傷に塩をすり込むようなことをしていたのです。

そんなパリサイ人シモンとイエス様が食卓についておられると、突然、ある札付きの売春婦がイエス様に会うためにやって来ました。怪訝な顔をする人々をよそに、彼女は脇目もふらずイエス様に近づき、泣きながら足下にひざまずきます。そして、その涙でイエス様の足を濡らし、自分の髪の毛でぬぐい、心を込めて足に口づけをし、その上に高価な香油を塗りました。

この女性は、以前にイエス様との出会いがあったのでしょうか。イエス様からありのままの自分を受け入れてもらい、また醜い自分の罪を赦してもらい、心から湧き上がる感謝と喜びが力となって、その罪の生活から立ち直ることができたのです。イエス様に愛され、赦され、受け入れられるという経験は、人の人生を変えるのです。

次に、ここから学ぶ第二のことは、人には誰でも霊的な負債があるということです。ここでイエス様は、短くて、簡単なたとえ話をされます。500デナリと50デナリの借金を帳消しにして貰った人の話です。今で言えば、5万ドルの借金と5千ドルの借金ということです。当然、5千ドルよりも、5万ドルの借金を帳消しにしてもらった人の方が、金貸しに対する感謝の気持ちも大きいでしょう。イエス様からその事を聞かれると、シモンもそう答えました。しかし、彼は、その事が自分にとってどんな意味を持つのかを解っていませんでした。

ここで言われている500デナリと50デナリの借金が象徴するのは、自分の罪に対する自覚の大きさです。またここに登場する金貸しは、どんなに多額の借金でも帳消しにして下さる神様のことです。つまり、人は誰でも神様に対して罪という負債を負っており、その負債に本当に気付く、赦しを願うなら、神様はその負債を帳消しにして下さるということなのです。しかし、その負債は、本来すべての人が同額であるのに、人によってその額に対する自覚が違うのです。自分の罪の大きさに気付く、その罪を赦して下

さる神様の愛を知ることが出来たのは、パリサイ人のシモンではなく、売春婦でした。

このお話から学ぶ第三のことは、多くを赦された者は多くを愛するという法則です。イエス様にとって、この女は売春婦というよりも、神の救いに感謝する人でした。イエス様がご覧になれば、売春婦だろうが、パリサイ人だろうが、神様の前に罪という負債を持った者であることに変わりありません。もし、神様がその償いを要求されれば、売春婦も、パリサイ人も、永遠の滅びを免れることはできないのです。しかし、気前のいい金貸しに象徴される神様は、その途方もない愛と憐れみをもって二人の罪を赦して下さるのですが、その赦された罪の大きさに対する二人の自覚が全く違っていました。そして、その違いがイエス様に対する二人の態度に現われているのです。イエス様を食事に招いたシモンの態度は冷淡でした。一方、この女は、イエス様を愛して止まない行動を取りました。シモンは、この女は罪深く、自分は正しいと思っていましたが、真理は逆で、女の方が正しいことを行ない、シモンは愛に欠けることをしていたのです。この違いは何を表しているのでしょうか。イエス様はこう言われます。『この女は多くを愛したから、その多くの罪は赦されているのである。少しだけ赦された者は、少しだけしか愛さない』と。

あなたは、どれだけイエス様を愛していると思っておられますか？

証し

鶴田美代子

かつて40年間に渡って創価学会員だった私は、1986年頃からは毎年一回は長崎より、息子が住むアメリカに来ていました。アメリカにいる間、家に居ても暇な時間が多く、何か面白い本はないかと書棚を探したのですが、キリストに関する本ばかりで仕方なく其の本を読みあさりしました。その影響で、私はキリスト教のことが少しずつ分かるようになりました。

ビジネスマンから牧師になった息子は、当時住んでいたロスの郊外から、教会開拓のため毎週ラスベガス通っていました。アメリカに居る3ヶ月間は、私も息子夫婦と一緒にラスベガスに行くことはありませんでした。道中、車内で沢山の先生方のテープを聞かされ、その中に金藤光一青年の証を聞いた時、そのお話の中で、「恐れるな私があなたと共にいつもいる」という聖書の言葉がなんとなく私の心の中に残って離れませんでした。ラスベガスのアパートに着いた翌日はクリスチャンの人達が聖書の勉強に来られ、その度に「私、買い物に行く」と言って、その場から逃げていました。昼も過ぎたので、もういないだろう、と帰って来たら、また第二軍の人たちが来ていました。もう逃げる口実がないので隣の部屋に閉じこもっていると、「座っているだけでいいから一緒に話を聞けば」と息子に言われ、その人達の中に座りました。その人達は入門者クラスを勉強する人達でした。その時の勉強は、イエス・キリストが私たちの罪の贖いのため十字架にかかって死んで下さり、墓に葬られ、三日目に死からよみがえられたという内容でした。日蓮は私のために死んでくれたという思いながら、それがまたきっかけとなり、入門クラスを受けるようになりました。そして、私の罪のために死んで下さったイエス様を信じ、2003年4月20日のイースターの日に洗礼を受けました。その時の喜びは言葉では言い表す事が出来ません。入門者クラスを受けていた他の二人の方々も、「お母さんが洗礼を受けるのなら私も受けます」と言って下さり、一緒に三人が受洗しました。孫やお友達もロスから祝いにかけてくれました。

洗礼を受けて数日後、私の帰国の日がやって来ました。帰りの飛行機の中で、今までの喜び

は何処かに行き、急に淋しい思いにかられました。「神様、私は帰ったらたった一人のクリスチャンです。あなたは私と共にいて下さると約束して下さいました。私はどうすれば良いのですか。神様、教えてください。」と飛行機の中で祈りました。こんな時、信仰深い人は神の声を聞いたなどと言われます。でも、私には何も聞こえません。「どうすれば良いのですか」と何度も何度も神様に問いかけました。すると、しばらくして、ふと家の仏壇を始末しなければという思いが与えられたのです。そこで私は、そうだ、帰ったらまず仏壇の始末をしようと思いに決めました。そうすると肩の軽くなる思いで眠りにつく事が出来、目覚めた時には成田の上空でした。

我家に着いたのは夜中の12時頃でした。早速、本尊をはずし、翌日返しに行こうと玄関を出ようとした時、二人の学会員が、「もうアメリカから帰ってくる頃だと思い、寄ってみた」と言って来たのです。私は、「今あなたの所に本尊を返しに行く所だった」と言うと、二人は「そんな事したらバチが当たるから止めた方が良い」と私に言いました。私が「キリストを信じるクリスチャンになったから、バチをあてる様な物はいらぬ。あなたが受け取ってくれないから直接本部に持って行く」と言うと、その学会員の方が手続きの書類を書かないと受け付けないというので、一緒に行って返してくれました。家に帰ってしばらくすると妹が、私が帰ってきたとこのことで訪ねて来ました。色々話しても落ち着きがなく、言い難そうに「あの仏壇返してくれん？あの仏壇は死んだ夫の買った物だから、姉ちゃんには別の買ったあげるから」と言いました。しかし、私はもう仏壇はいらぬクリスチャンになったのだから、と言い断りました。翌日、私が買い物から帰ってくると、仏壇はもう私の家から運び出され、きれいさっぱりしていました。その時、私は神様に感謝しますと祈りました。私に出来ない事を全て神様がして下さったからです。神様の御心を、それに従うと固く決心して神様に祈るなら、神様が働いて下さるということを知りました。これからも、この神様をどこまでも信じて信仰生活を全うしたいと思います。

## 案内・ニュース

- ・ 11月にはルイス・パートラン兄、ケイ・パートラン姉、堀田暁文兄が洗礼を受けられました。この三人の方々新しい信仰生活の上に豊かな主の祝福がありますように。
- ・ 11月23日(金)の6:00-11:00PMの特別祈禱会には14名の方々が参加して下さい、5時間に渡る祈りが、心一つにして主に捧げられました。
- ・ 12月19日(水)6:30PMより、キャンドルライト・サービスがもたれます。
- ・ 12月23日(日)はクリスマス礼拝です。私たちの主イエス・キリストの御降誕を心よりお祝い致します。
- ・ 12月26日(水)は、6:30PMより忘年祈禱会をもちます。年越しそばをいただきながら一年の恵みの証しを分かち合い、新しい年に向かって大きな望みを確認し合う時と致します。

## DREAMS COME TRUE

- ✪ 教会堂の建設
- ✪ 敬老ホームの設立
- ✪ 幼稚園の設立

